

2021年11月21日 午前礼拝 説教:大木英雄牧師
「神に栄光を帰しなさい」

使徒 12:18~23

18. さて、朝になると、ペテロはどうなったのかと、兵士たちの間に大騒ぎが起こった。
19. ヘロデは彼を捜したが見つけることができないので、番兵たちを取り調べ、彼らを処刑するように命じ、そして、ユダヤからカイザリヤに下って行って、そこに滞在した。
20. さて、ヘロデはツロとシドンの人々に対して強い敵意を抱いていた。そこで彼らはみなでそろって彼をたずね、王の侍従ブラストに取り入って和解を求めた。その地方は王の国から食糧を得ていたからである。
21. 定められた日に、ヘロデは王服を着けて、王座に着き、彼らに向かって演説を始めた。
22. そこで民衆は、「神の声だ。人間の声ではない。」と叫び続けた。
23. するとたちまち、主の使いがヘロデを打った。ヘロデが神に栄光を帰さなかったからである。彼は虫にかまれて息が絶えた。

使徒 12:18, さて、朝になると、ペテロはどうなったのかと、兵士たちの間に大騒ぎが起こった。

朝になってみるとペテロがいないのです。ペテロは2本の鎖につながれて、二人の兵士の間で寝ていたのです。一番驚いたのはこの二人の兵士です。ペテロはこの二人の兵士につながれていたのです。誰かが二人の兵士を殴って、気絶させ、二人の兵士から鍵を奪い、その鍵で手錠を開けたのであれば、二人の兵士は覚えているはずですが。

使徒 12:7, すると突然、主の御使いが現われ、光が牢を照らした。御使いはペテロのわき腹をたたいて彼を起こし、「急いで立ち上がりなさい。」と言った。すると、鎖が彼の手から落ちた。

突然主の使いが現れ、光が牢を照らした。主の使いは霊的な存在なので兵士たちには見えません。ペテロにも見えません。

使徒 12:9, そこで、外に出て、御使いについて行った。彼には御使いのしている事が現実の事だとはわからず、幻を見ているのだと思われた。

ペテロも御使いの声は聞こえますが目で見ることにはできません。ペテロにも御使いがしているのが、現実のことだとはわからなかったため、兵士たちに御使いのしていることがわかるはずがありません。

使徒 12:18 さて、朝になると、ペテロはどうなったのかと、兵士たちの間に大騒ぎが起こった。

兵士たちの気づかないうちにペテロがいなくなったので、大騒ぎになるのは当然です。それからローマの法律で牢の中の囚人を監視している兵士は、囚人がいなくなったら死刑にされるのです。ペテロがいなくなったので兵士たちが大騒ぎをするのは当然です。ペテロは御使いによって救出されましたがペテロを監視している兵士たちにとっては大迷惑です、死刑にされるのですから。

使徒 12:20, さて、ヘロデはツロとシドンの人々に対して強い敵意を抱いていた。そこで彼らはみなでそろって彼をたずね、王の侍従ブラストに取り入って和解を求めた。その地方は王の国から食糧を得ていたからである。

「ツロとシドン」

ガリラヤ湖の西北にある地中海沿岸の町、シドンの方が北にあります。ツロとシドンは 30 キロほど離れています。どのような理由でヘロデがツロとシドンの人々に強い敵意を抱いていたのかは聖書に書かれていませんのでわかりません。王の侍従ブラストがどのような人かもわかりません。ツロとシドンは王の国ユダヤから輸入される穀物に頼っていたからです。

使徒 12:21 定められた日に、ヘロデは王服を着けて、王座に着き、彼らに向かって演説を始めた。

ヘロデの王服は銀の糸と素晴らしい織物とで出来た衣です。朝早く劇場に入ってきた。時に衣の銀色が日光をまばゆく反射して驚くほど輝いたので、彼を見ていた人々は恐れをなしたほどです。

使徒 12:22, そこで民衆は、「神の声だ。人間の声ではない。」と叫び続けた。

使徒 12:23, するとたちまち、主の使いがヘロデを打った。ヘロデが神に栄光を帰さなかったからである。彼は虫にかまれて息が絶えた。

「主の使い」

これはペテロを監獄から救い出した主の使いです。ヘロデは神に栄光を帰さなかったからです。「神に栄光を帰す」とはどういうことでしょうか。

創世記でヤコブの 12 人の子度のうち下から 2 番目のヨセフはお父ヤコブからとてもかわいがられていたので、お兄さんたちからとてもねたまれ、エジプトに奴隷として売られてしまったのです。しかし神様がヨセフと共にいてくださったので、ヨセフが何をしても祝福されました。

ところが主人ポテファロの奥さんがヨセフを誘惑したのです。ヨセフは神様を恐れていましたので誘惑に負けませんでした。すると奥さんは怒って主人のポテファルにヨセフが自分を誘惑したと「うそ」を言ったのです。主人のポテファルは怒ってヨセフを監獄に入れるのです。

同じ監獄にエジプト王パロの献酌官長と調理官庁がパロに罪を犯して投獄されていたのです。この二人は夢を見ましたがその意味が解らなくて悩んでいました。ヨセフはこの二人の夢を解き明かして、献酌官長はヨセフの夢の解き明かしのとおりに釈放されます。ヨセフは献酌官長に「あなたが釈放されたら私のことをパロに言ってくれ」と頼みましたが、献酌官長はヨセフから頼まれたことを忘れてしまうのです。

しかし2年後にパロは夢を見ました。ナイル川から肉づきの良い7頭の雌牛が上がってきます。次に醜いやせ細った7頭の雌牛がナイル川から上がってきます。そして醜いやせ細った7頭の雌牛が、つやつやとよく肥えた7頭の雌牛を食べてしまったのです。次に肥えた7つの穂が一本の茎から出てきました。その後しなびた7つの穂が出てきて、肥えた7つの穂を飲み込んでしまった。

エジプト王パロは、エジプトの呪法師にその夢の解き明を尋ねたが、誰もその夢を解き明かすことが出来ませんでした。その時献酌官長はヨセフが夢を解き明かすことが出来ることをやっと思出したのです。

すぐにヨセフは監獄からエジプト王パロの前に呼び出されました。パロはヨセフに「あなたは夢を解き明かすということだが」と尋ねました。ヨセフはパロに答えていった。「私ではありません、神様がパロの繁栄を知らせてくださるのです。」これが「神に栄光を期す」ということなのです。

Iコリント 10:31, こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。

ヨセフは実際に夢を解き明かす能力があるのですから、「はい、私は夢を解き明かすことが出来ます」と言っても嘘ではありません。しかしヨセフは夢を解き明かしてくださるのは神様だと心から信じているのです。

多くの人は王様の前であれば、「私には夢を解き明かす能力があります」と言うでしょう。王様から用いられるわけですから、出世することは間違いありません。しかしヨセフは「私ではありません、神様がその夢を解き明かしてくださるのです」と言ったのです。これが「神に栄光を帰す」ということなのです。

例えばノーベル賞をもらった人がいたとします。みんなはノーベル賞をもらった人をほめたたえます。そこでノーベル賞をもらった人が「私に能力があったわけではありません、神様が私に能力を与えて下さったのです。」と言えば「神に栄光を帰した」ことになります。そんな人は聞いたことがありません、その人の栄光になるのです。

私は医学部の大学の教授を知っています、素晴らしいクリスチャンですが、奥様と別居をしています。人間は誰でも人から褒められたいのです。医学部の教授ともなればみんなから尊敬されます。知らず知らずのうちに自分の能力のように思ってしまうのです。神様が自分に能力を与えられたとは思えなくなってしまうのです。人から褒められて嫌な人は誰もいません。

私などは台湾から小学校2年生の時に引き揚げてきました。着の身着のまま引き上げてきましたので引揚者は貧乏です。父は長男でしたので二男の人から田んぼと畑をもらい家も建ててもらいました、しかし貧乏です。父は村会議員までやりましたが、田舎では貧乏人は尊敬されません。ですから私に人生観は人から認められたいというのが私に人生観になりました。

しかし勉強は嫌いでしたので高校を卒業して大阪のアルミ工場に就職しました。日本全国からアルミの屑がトラックで運ばれています。そのアルミの屑を選別しなければなりません。お釜のアルミ、鍋のアルミ、ジュラルミンや銅の屑も交じっています。それを選別するのはむづかしいので私はみんなが選別したものを大きなかごに入れて溶鉱炉まで運ぶのが私に仕事です。

昼飯はお米を飯盒に入れ溶鋼炉から取り出したアルミを型に入れてインゴットにするのです。その熱いインゴットの上に飯盒を置いておくとご飯が炊けるのです。おかずはお店に注文します。自分の一生もこれで終わるのかと思うとみじめになり、やっと大学受験のために勉強を始めました。

しかし夜は昼の疲れで勉強が出来ませんので、夜の7時ぐらいに寝て朝早く起きて勉強するのです。そのおかげで次の年に三菱電機の入社試験に合格しました。三菱電機でも高卒と大卒では出世コースが違うので、やはり大学へ行こうと夜は7時に寝て朝早く起きて勉強しました。

しかし追い込みになると昼働いて夜勉強している人は、昼間ずっと勉強している人にはかなわないのです。それで三菱電機を辞めて勉強してやっと大学に入れていただきました。そして大学院まで行きましたが、肩こりがひどくて勉強が出来なくなり、修士でやめました。

私は高校の教師をしていましたが、物理学の研究がやれなくなったことを悩んでいましたが、ベテイ先生から長女をいただいた時、長女を産んだお母さんは出血多量で亡くなったのです。

この子はなんとかかわいそうな子だと思っていましたが、ベテイ先生が「大木さんこの子はかわいそうな子だと思いますか、この子は神様が必要だから生まれてきたのです、神様がこの子を必ず益にしてくださいませ。」

私も物理がやれなくて悩んでいましたが、「神様にゆだねたら神様が私の人生を益にしてくださいませ」という信仰が与えられました、そして神学校へ行き決心をしました。

ローマ 8:28, 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

何が言いたくて長々と書いたかと言いますと、私は人から認められたくて頑張ったということです。これは私だけではなく多くの人は、私と同じではないかと思えます。しかしこのように自分の栄光を現したいという生き方が罪なのです。

私たちが自分の人生の神になることが罪なのです。祈ってヨセフのように「私ではありません、私に夢を解き明かす能力を与えてくださったのは神です」と言いたいです。

多くの人は「神に栄光を帰す」とはどのような意味かを知りません。「神に栄光を帰す」とはヨセフのように「私ではありません、神様が私に能力を与えてくださったからです。」ということです。

「神に栄光を帰す」とは神様のために何かをすることではありません。「神様が私にこのような素晴らしいことをしてくださいました。」と神様に感謝することです。神様は私たち一人一人に能力を与えてくださっています。神様が私たちに与えてくださった能力を感謝することです。これが「神に栄光を帰す」ことです。

【説教:大木英雄牧師】